

色とユニバーサルデザイン

色は、誰もが同じように見えている訳ではありません。

「緑」と「赤」の違いが分かりにくいなど、色の識別が難しい人もいます。

日本人では、男性の約 20 人に 1 人、女性の約 500 人に 1 人いるといわれています。

また、加齢により白内障等で色がぼやけて識別しにくい状態になる人もいます。

だれにとっても分かりやすく、正しく情報を伝えるためには、色への配慮が必要です。

(1) 色覚障害とは？

ひとの網膜には3種類の錐体細胞があり、それぞれ赤、緑、青を感じる視物質を持っています。このうち、いずれかの機能が損なわれた状態が「色覚障害」です。

(2) どのように見える？

どの機能に障害があるかや、個人差もありますが、色覚障害のある人の多くは、「赤から緑」の色の差を感じにくくなったり、赤を暗く感じて「濃い赤」が「黒」に見えたりします。

また、加齢などによる白内障は、白と黄色、青と黒の判別が難しくなると言われます。

参考：NPO 法人 カラーユニバーサルデザイン機構

「色弱・色盲・色覚タイプの特徴」

http://www.cudo.jp/colorud/color_vision/peculiar_color_vison_types

(3) 色のユニバーサルデザイン

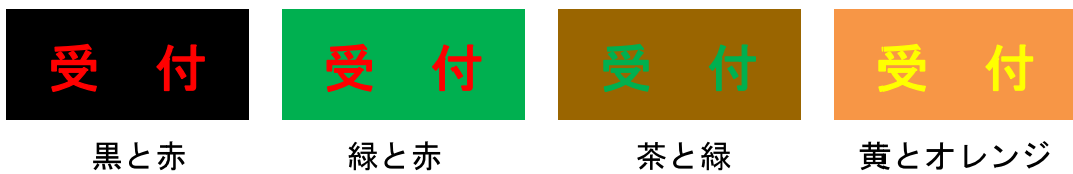
色覚障害のある人や、白内障等で色がぼやけて見える人など、だれにとっても見やすいデザインとするために、次のような配慮をしましょう。

- **できるだけ多くの人に見分けやすい配色とする**
「黒と赤」など、色覚障害のある人が見えにくい配色は避けましょう。

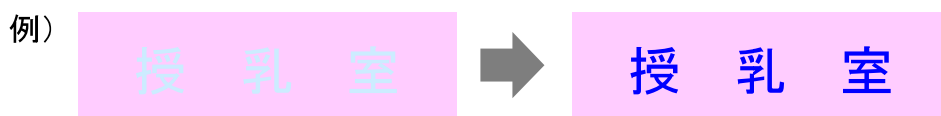
例) 見分けやすい色の組み合わせ



例) 見分けにくい色の組み合わせ



- **明度差をつける**
色が接する場合、色の明るさを変えることで、見やすくなります。



- **セパレーションを用いる**
色と色の間に別の色で境界を入れて、それぞれの色を独立させ、見やすくする方法です。セパレーションを用いることで、見分けにくい色の組み合わせでも、見やすくなります。



● 色だけでなく、字体や記号、柄などを併用する

文字のフォントを変えたり、グラフの記号や柄などを変えたりすることで、色が見分けにくい人にも伝わります。

例)

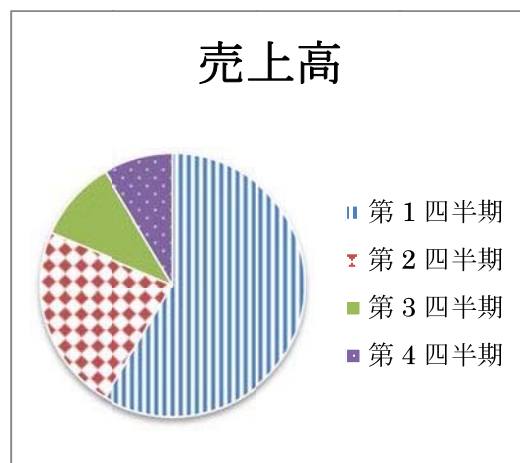
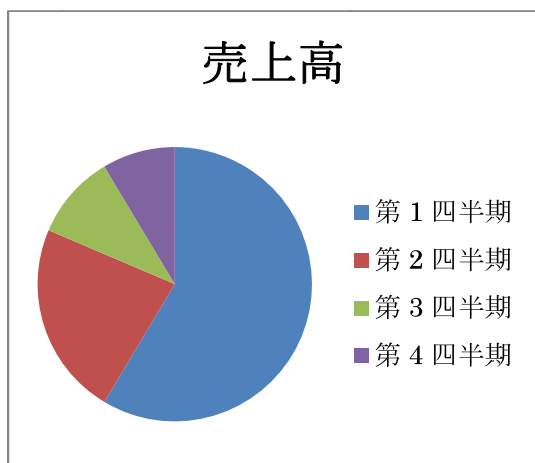
ここからは、関係者以外**立ち入り禁止**です



ここからは、関係者以外**立ち入り禁止**です

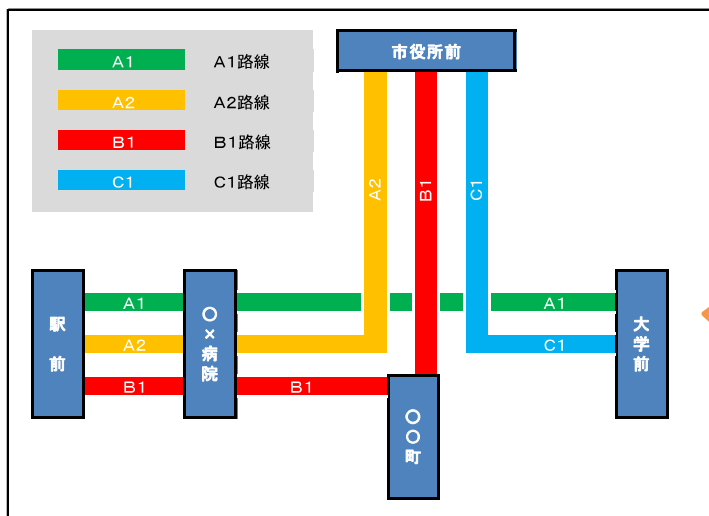
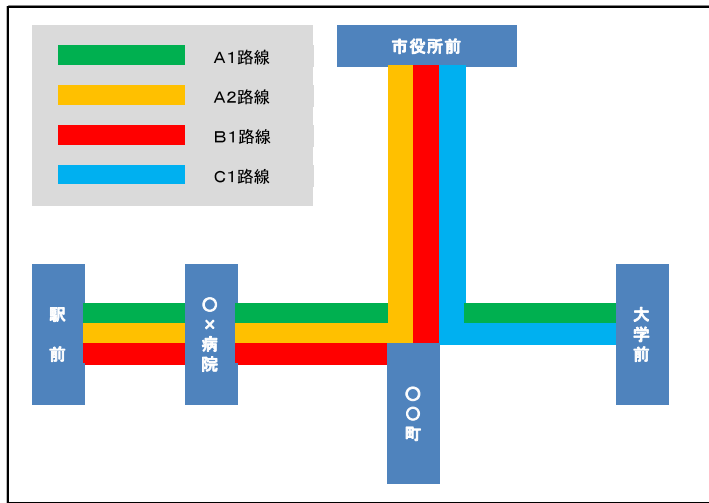
字体の変更・太字・下線

例)



グラフの色だけでなく柄も変える・
色と色の間に白でセパレーション

例)



線と線を離す・
線の外側に白でセパレーション・
線の上に文字情報を記載